

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 010	提案機関名 JA全農かながわ
要望問題名 水稻の高温耐性品種の導入および作期分散について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 令和5年産、6年産米については、高温障害の発生等により、1等米比率が著しく低下した。地球温暖化の影響に伴う高温傾向は、今後も継続すると想定されていることから、本県についても高温耐性品種の導入（中生品種）および本県における適切な栽培体系（早生品種）について、試験研究をいただきたい。 併せて、現在本県の作型が早生品種中心となっており、主要品種の「はるみ」に近い作期である「てんこもり」の普及が滞っている状況にある。こうした状況を打開し、生産者の作期分散のニーズに応えるべく、今後新たな中生品種の導入を検討いただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) Ⅱ-1(2)イ(ア) 水稻奨励品種決定調査事業 a 予備調査・本調査(中生品種) Ⅱ-2(1)ウ(ウ) 水稻‘にじのきらめき’の高品質・安定生産技術の確立、(ケ) 水稻の収穫適期の解明		
対応の内容等	中生品種については、本県の奨励品種である‘てんこもり’と同熟期かつ同等以上の良食味、高品質、高収量の品種・系統の選定を進めています。品質については、特に近年の高温傾向において白未熟粒の発生が少ないものを選定の基準としています。なお、作期分散のため、‘てんこもり’より遅い中生品種の選定に取り組めます。また、早生品種につきましては、本県に有望な高温耐性品種‘にじのきらめき’の高品質安定生産に向けた肥料試験や収穫適期を明らかにする試験を引き続き行います。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			